東京内科医会―その魅力を語り尽くす

多彩な会員サポートで開業後も共に学び続ける仲間と場を提供

東京内科医会理事 **安田 洋氏**　東京内科医会理事 **大西真由美氏**　東京内科医会会長 **菅原正弘氏**　東京内科医会理事 **成子 浩氏**

東京内科医会は1985年に日本臨床内科医会と表裏一体となって以来、東京都医師会や日本内科学会と密接に連携しながら、「内科学卒後研修の強化」「臨床内科医の在り方の改善」「内科系診療報酬の向上」を三大目標として活発な活動を展開してきた。時代の課題にも積極的に取り組み、現在は女性医師の復職支援や認定医・専門医取得などに注力している。会長の菅原正弘氏を進行役に、理事3人が東京内科医会の魅力を語り尽くした。（編集部）

東京内科医会の八大企画と会員のメリット

菅原　まず、東京内科医会に入会したきっかけをお話しください。

大西　私は大森医師会に所属し、ずっとB会員だったのですが、A会員になった際、東京内科医会の案内が郵送されてきたので入会しました。

成子　私は消化器外科が専門なのですが、開業して数年たった頃、副会長の清水惠一郎先生に誘っていただきました。

安田　開業の準備をしていたとき、神津内科クリニックの神津 仁先生にお誘いを受けたことが入会のきっかけです。活動に参加すればするほど、実地医家の先生方が、内科診療の向上のために多くの取り組みをされていることがわかり、自分自身の勉強にもなっています。

菅原　おっしゃる通り、当会会員の最大のメリットは、自分の勉強になること。その一言につきます。当会には「八大企画」という活動があり、中でも「臨床研究会」は他に類のない活動です。都内に13ある医学部内科学教室、聖路加国際病院、国立がん研究センター、東京都老人医療センター内科医局等と連携し、症例検討を中心としたカンファレンスを行っています。日本有数の病院の先生方が症例を解説し、質疑応答もできるためとても勉強になります。

安田先生は、日本医科大学付属病院で開催された臨床研修会に参加されましたね。いかがでしたか。

安田　非常に満足いく内容でした。日本医科大学付属病院は私のクリニックからは地理的に少し遠いのですが、同院の先生方と症例を検討し、院内を見せてもらうことで身近に感じられるようになりました。

菅原　臨床研究会は、開催先の病院を見学できることもメリットの1つです。都内では近年、大学病院などの改築が続いており、できるだけ最新の病院設備も見学できるように配慮しています。例えば、国立国際医療研究センターでは感染症室を見学し、患者さんの動線とぶつからない厨房の配置など、最新の感染対策を見ることができました。待合室、外来、病棟は必ず見学します。常連の先生方は全ての大学病院を熟知しています。

毎年3月開催の東京内科医会医学会も、特筆すべき活動です。成子先生は毎回発表されていますね。

成子　東京内科医会医学会は、まさに実地臨床に即した発表の場です。多くの先生方が素晴らしい発表をしていて、全国規模の学会とはまた違う魅力がありますね。

菅原　特に印象に残っている発表があったら教えてください。

成子　昨年であれば、よりふじ医院の依藤 壽先生の「慢性疾患フォロー中の患者のがん罹患状況～定期受診の陰に潜むリスク～」です。

菅原　患者さんの経過を長く診る中で、がんがどのくらい早期に見つかっているか、詳細な統計が出ていましたね。

成子　かかりつけ医の仕事を斬新な視点で振り返っておられ、本当に素晴らしいと思いました。

医療法人社団泰静会大西医院院長
大西真由美（おおにし・まゆみ）氏
1987年筑波大学医学専門学群卒業、1991年東京大学医学部大学院修了。2006年より大西医院を承継。日本内科学会認定総合内科専門医、日本血液学会認定 血液専門医、認定産業医。

菅原　自分がいつも診ている患者さんについて、あらためてまとめてみるのは非常に大切だと思います。

毎年2月に開催している「内科セミナー」は、新進気鋭の講師を招いての実地臨床講演会です。内科の最新トピックや、日常診療のために知っておきたい他診療科の疾患をテーマに取り上げ、日曜日の朝から夕方までみっちり学びます。

成子　内科セミナーは、私のように専門が内科以外で内科を標榜している医師にとって、非常に有意義です。受講するとその単元について網羅でき、専門的な知識が身に付くので、皆さんに勧めたいですね。

菅原　講師に招くのは、その分野において著名であり、かつ分かりやすく話してくださる先生です。診断、治療のコツなど、専門医ならではのお話は日常診療に直結します。

大西　翌日の診療で「昨日こういう話を聞いてきました」と、患者さんに話すこともよくあります。

菅原　普通はそこまで聞けないという細かい部分まで、話してもらえるのがこのセミナーの特徴です。

「賛助会員（企業）と共催の学術講演会」も定期的に開催しています。最近では、多くの医療訴訟を手がける水島綜合法律事務所（大阪市）の水島幸子弁護士の講演が好評でした。ほかに会員の関心が高いのはやはり、診療報酬です。改定の年には日本医師会から講師の先生をお招きし、会員に最新情報を随時提供するようにしています。

また、実技中心の研修会である「実地臨床研修会」は、日々の診療にすぐに役立つ知識や技術を学べます。

大西　私は、エコーの研修を受けました。ハンズオンで何度もやらせてもらえる研修なんて、なかなかないですからね。

目黒通りハートクリニック院長

安田 洋（やすだ・よう）氏

1996年滋賀医科大学医学部医学科卒業、第一内科（呼吸循環器内科）入局。2005年同大学院修了等を経て、2013年開業。総合内科専門医、循環器専門医、日本医師会認定産業医、プライマリ・ケア認定医。

菅原　エコーの研修は重要だと思っています。心エコーや腹部エコーはもちろんですが、最近は動脈硬化の検査として頸動脈エコーが必須です。実際にプローブを持って技術を学べるよう、超音波検査器を5台ほど用意し、受講費を5000円に抑えています。毎回20～30人の参加があり、リピーターも多いです。

成子　そのような研修は普通、3万円くらいかかりますから、非常にリーズナブルです。

検査の基本など実用的な研修も充実

菅原　今後は、会員の声に応える取り組みをより強化していかなければならないと考えています。2018年7月からは日常診療における会員の疑問に答える新企画がスタートします。

安田　最近の学会や研究会では、若手医師向けに検査のABCのようなレクチャーをしてとても好評のようです。開業当初は、どこまで深く検査すればいいのか、専門外の領域でどの検査を行うべきかなど、迷うことも多いので、そういったことを勉強できる場があると、入会しようという若手医師が増えるかもしれません。

菅原　確かにそうかもしれません。当会に入会すると同時に会員となる日本臨床内科医会（以下、日臨内）でも、2016年開催の「内科診断学実践コース」では「3秒で心電図を読む」（山下武志・心臓血管研究所所長）、「見落としのない胸部単純写真の読み方」（栗原泰之・聖路加国際病院放射線科部長）など、基本的なレクチャーは、会場に入り切らないくらい人が集まりました。

成子　山下先生に心電図の読み方を教えていただく機会は貴重です。

菅原　若い先生方向けのレクチャーは、積極的にやっていかなければなりませんね。前述した内科セミナーや各種研修会の内容は、年3回発行する東京内科医会会誌に掲載し、会員に広く情報を提供しています。サマリーではなくお話を全てテープ起こししているので、非常に読み応えのある記事になっています。

成子　会誌はとても参考になっています。

菅原　日臨内の会誌も充実しています。内科だけでなく、その周辺疾患についても学べる内容です。「日進月歩」というページでは、各診療科のトピックを扱い、その診療科の最新の動きがわかるようになっています。実地医家による座談会のページは、企業が一切関与していないため偏りがありません。ここを読んでいると、自分が講演をするときなどに役立ちます。

大西　「日進月歩」は、私も原稿を執筆させていただきました。

菅原　「日進月歩」は1ページの記事ですが、執筆する先生により視点や難易度が異なるのが面白いと感じています。記事に対する評価はアンケートで集めていますが、座談会や総論はいつも評価が高いですね。

女性医師の復職支援と専門医取得の取り組み

菅原　女性医師支援も当会の大きなテーマです。私の娘も医師で、入局後しばらくして妊娠・出産しました。女性は、医師が最も勉強する時期に現場を離れることもありますが、仕事と家庭の両立など、大西先生はどのように感じておられますか。

大西　私の場合は専門医認定を受け、留学もして、と少しキャリアを積んでから子供を産みました。当時は企業のメディカルドクターとして勤務していて、人事部門が在宅勤務も可能な制度をつくってくれたので助かりました。その職場は社員の3割が女性でしたが、制度を利用して、3人のお子さんを次々出産して復帰する方がいたりなど、出産による離職者が出ない職場になりました。

一方、医師の場合、菅原先生がおっしゃったように、卒後すぐに結婚、妊娠となった人は大変だったようです。医師はその時期、何でも見よう、何でも経験しようという意欲にあふれ、吸収力もあります。そんなときに離れざるを得なかったある女性医師は、かなり葛藤があったとのちに話していました。ご両親が遠方だったので、子供がある程度大きくなるまでは主婦として過ごし、復帰してから医師としての本格的なトレーニングを始めていましたね。

成子クリニック院長

成子 浩（なりこ・ひろし）氏

1991年東京大学医学部卒業、第一外科（大腸肛門外科）入局。東京大学医学部附属病院等を経て、2003年開業。日本外科学会所属、産業医、スポーツ健康医。

菅原　日臨内では、「医学生、研修医、女性医師をサポートするための会」を毎年開催しています。女性医師に聞くと、夫が家事を3～4割負担し、妻が医師の仕事を続けるなど、いろいろな家庭があります。しかし、医局をいったん離れる方もおり、当会はそのような方の復帰をサポートする体制を強化する考えです。開業は、家庭と仕事を両立させるというい点ではいかがですか。

大西　家庭と仕事を両立させ、子どもとの時間も十分につくるには、開業は有力な手段だと思います。朝、子どもを保育所や学校に送り出した後、例えば9時から診療を始め、14～15時に終わらせることもできます。職員も同じような時間的条件の人を雇いやすくなります。ネックはおそらく経済面だと思いますが、私は実家の力も借り、夜中に仕事をすることもたまにありましたが、全体的には育児しやすかったです。

菅原　出産や育児のために医局を離れた先生は、当会に入会することで日臨内の認定医・専門医の取得も可能になり、キャリア形成の上でメリットがあると思います。

大西　近所に、女性医師が姉妹で診療されている医院があります。お姉さんが研修医2年目くらいのとき、お父様が突然亡くなられたため後を継いだものの、専門医になるためのトレーニングが途中になってしまいました。その後、妹さんも医師になり、2人で助け合いながら、他院で勉強するなどして実地診療を一生懸命なさっています。その方たちは、日本臨床内科医会認定医・専門医制度を知りませんでした。

菅原　日臨内の認定医・専門医資格は、所定の研修単位などの条件を満たし、論文と筆記試験をパスすることで得られます。実際に取得した女性医師も少なくありません。出産・育児だけではなく、留学などで医局を離れ、専門医になるタイミングを逸してしまった人で、一生懸命勉強しながら開業している先生には、ぜひ目指していただきたい。標榜はできないものの、その質は日臨内がしっかり担保しています。

成子　実地医家は、開業後も勉強することが大事だと思います。勉強を続けていることの証の1つが、日臨内の認定医・専門医資格であり、そこにも日臨内や当会の存在意義があるのではないでしょうか。

人とのつながりと一生勉強できる場を提供

菅原　成子先生は、当会理事会の庶務部担当として活躍されていますが、やりがいなどはいかがでしょう。

成子　一番大きいのは人の魅力ですね。研修などのプログラムが充実し、認定医・専門医制度もあるなどメリットは多々ありますが、いろいろな人と出会え、魅力ある人と一緒に活動できることがやりがいです。

菅原　当会には派閥は一切ありません。また、医師会活動は一般的に平日の日中ですが、当会は患者さんの診療を優先するという考え方で、研修会や講演会、委員会などは、平日は20時から、土曜は16時から、あるいは日曜日に開催しています。

大西　開業のノウハウは医局では聞けないですから、やはり開業されている先生に直接相談したい。いろいろなことを気兼ねなく聞け、仲間が集まって情報や悩みを共有できる場

医療法人社団弘健会菅原医院院長

菅原正弘（すがわら・まさひろ）氏

1980年順天堂大学医学部卒業、内科学講座入局。順天堂医院等を経て、1993年開業。2012年より東京内科医会会長。日本内科学会評議員、日本糖尿病学会専門医・評議員、日本リウマチ学会専門医・評議員、日本消化器内視鏡学会専門医、日本臨床内科医会専門医。東京都医師会生活習慣病対策委員会委員長。

がこの会なのかなと思います。

安田　私もそう思います。当会に参加すると知り合いが増えるのが、一番の魅力ですよね。

成子　おっしゃるとおりです。若い実地医家の先生には「1人で孤独なままやるな」と言っています。「おいでよ」と。

安田　1人でやると遠回りになりますよ。

成子　いつの間にか間違ったことをやっている恐れもないとは言えませんし、サプリメントを飲みたがっている患者さんに何と言えばよいかなど、教科書には書かれていないことも教えてもらえます。なかなか聞きづらいことも気軽に聞け、実用的なことを学べる貴重な機会です。

菅原　今後の健康長寿社会を見据え、かかりつけの内科医に求められるものは以前よりもはるかに幅広く、包括的、総合的な診療が求められています。日臨内では「女性のミカタ」プロジェクトを推進し、骨粗鬆症、過活動膀胱、ロコモティブシンドロームおよびメタボリックシンドロームの啓発を行っています。これらを早期に発見し、治療することは健康長寿社会に必須であり、重要な取り組みとして位置付けています。禁煙活動にも積極的に取り組んでいます。

日臨内は約1万5000人の会員を擁し、それを生かした大規模研究も行っています。神経障害の研究や高齢者高血圧の研究はガイドラインにも引用され、インフルエンザ研究は世界的にも注目されています。

大西　今シーズンの『インフルエンザ診療マニュアル』が、先日送られてきたところです。

菅原　日臨内には日常生活と疾患に関連する大規模調査、COPD全国アンケート調査、予防接種のワクチンに関する調査などもあります。適正な研究活動のために、臨床研究の倫理審査委員会も立ち上がっています。

また、医療制度に対する要望をまとめ、内科系学会・社会保険連合会および日本医師会を通じて厚生労働省へ提言することにも力を入れています。往診の診療報酬アップや、地域包括診療料・加算における施設基準で常勤医数が3人から2人に減ったのは日臨内の提言によるものです。

患者さんの啓発としては、日臨内で小冊子も独自に作成しています。メーカーに頼ることなく、さまざまな疾患のものを揃えています。

大西　小冊子は、私もいくつか使っています。

菅原　糖尿病の合併症や骨粗鬆症は特に好評で、発行部数は多いものでは100万部。全部で1600万部ほど刷られています。

日臨内は、会員のメリットが大きいのにもかかわらず会費が手頃なのも特徴です（2018年4月からは8000円を予定）。会員サービスも充実しており、さまざまな優待制度があります。ホームページの制作もサービスの一環で、メールマガジンも発行しています。

安田　メールマガジンはよく見ています。

菅原　最後に、当会に望むことや、さらに魅力的な会にするための意見を一言ずつお願いします。

安田　会の存在を知らない若手医師も多いので、広報にもっと力を入れるべきだと思います。

大西　私も、もっと周知しないといけないと思います。未入会の人を会員が誘うのもいいのでは。

成子　当会には、入会したときに感じる魅力と、何年か経ってから気づく魅力があると思います。初めの頃は、一つひとつ不安が取り除かれて安心につながり、その後は、実地医家として一生学び続けるモチベーションを仲間がいることで保てる。たぶん、一生こうやって生きていくのだろうと感じています。

菅原　今日はありがとうございました。

（2017年11月14日開催）